

市民活動状況
(4月末日現在)

市内NPO法人数	32 団体
当センター登録団体数	137 団体
来館者数	1,282人
印刷機利用枚数	29,532枚

ひびき



発行枚数 500枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。
 会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や
 大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。
 開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。
 休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日
 〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
 E-mail katsudou@r-shimin.sakura.ne.jp URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net



市民団体活動紹介シリーズ No.32「龍ヶ崎市民環境会議 文化環境部会」

目指せ！市民活動日本一

文化環境部会は平成16年(2004)に発足した龍ヶ崎市民環境会議の一つの部会です。
 龍ヶ崎市の「環境基本計画」策定に参画した市民が計画実現のために立ち上げた団体ですが、
 20年経ちますので当時を知る人もあまり残っていませんが、現在の部会員数は10名です。

これまでの実績は市内にある巨木を調査し「お宝の木」という冊子を発行しました。平成26年～
 30年にかけて市内の江戸時代初期の水戸街道と江戸中期からの水戸街道調査を行い、その経
 路や沿道の寺社や遺物を紹介した冊子『龍ヶ崎の水戸街道と古水戸街道』をまとめ発行してい
 ます。

そして平成30年から市内に遺っている「道しるべ(道標)」調査を行い、今年度中の冊子発行を目指しています。
 この調査のきっかけは“周辺の市町村にはすでに本としてまとまっているものがあるが、龍ヶ崎には無い”という事
 でした。「道しるべ(道標)」には道案内とともに建てられた年月、建てた人々、そして重要なのは建てた目的や由来が彫
 られていますので、そこから当時の人々の生活範囲や信仰などを推定することができるという事です。地元の人に
 伺ったり、自分たちで見つけたものは江戸時代後期から昭和の始め
 に建てられた69基です。道路の拡張や住宅や工場の建設で失われ
 たものも多いと思いますので元々何基あったか分かりませんが、今
 記録に残しておかなければ、ますます分からなくなってしまうという
 想いで取り組んでいます。

また、今回の調査を通じて感じるのは、地元の人でさえ道標という
 石造物の認識が無いことです。そのための一歩としてこの冊子が役
 立つことを願っています。

完成の暁には皆様には是非読んでいただきたいと思います。
 事務局は龍ヶ崎市役所生活環境課です。HPは「龍ヶ崎の隠れ文化
 財探し隊」を検索してください。



講座の案内

「初心者のためのボランティア講座」

「ボランティア活動してみたい」、「どうやって仲間をつくるの?」「今後、退職してから地域
 で活動してみたいと思っているが、何をやっていいか分からない」などの疑問点を解消し
 ましょう!

- ・日 時: 6月23日(日)午後1時30分～午後3時30分
- ・場 所: 2階 パソコン室
- ・講 師: 辻本 善信氏(元つくば市 市民活動センター副センター長)
- ・用 意: マイスリッパ
- ・申 込: センター窓口、電話0297-63-0030で受付中



講 師: 辻本 善信氏

るみちゃん対談 「あんぱんの生みの親～木村安兵衛と偉人マンガ制作」講座の報告



「偉人マンガ・木村安兵衛」出版を記念し、龍ヶ崎市市民活動センターでは、るみちゃん対談「あんぱんの生みの親～木村安兵衛と偉人マンガ制作」を4月28日に開催しました。

「偉人マンガ・木村安兵衛」の制作は、市民活動センターが毎月行っている円卓会議の中で、NPO法人龍ヶ崎市B&G海洋クラブ代表の海老原徹さんの発案から始まりました。

「B&G財団が、郷土ゆかりの偉人を知り、ふるさとへの愛情と理解を育むための『偉人マンガの制作と活用』事業を行っているので、龍ヶ崎にも木村安兵衛という偉人がいるので、これを上手く活用しようよ」と海老原さん。この提案を円卓会議のメンバー全員が賛同し、市・文化生涯学習課に提案したところ、事業化を快く引き受けていただき、このたび発行の運びとなりました。

さて、イベントの第一部は「木村安兵衛あんぱん物語」を講談を交え、るみちゃんこと石上瑠美子(NPO法人松戸市民劇団理事長)さんに面白くお話いただきました。

そして第二部はこのマンガを描いてくださった、龍ヶ崎市出身の漫画家きむらひろきさんと石上さんに「偉人マンガ・木村安兵衛」について対談をしていただきました。

きむらさんのマンガ家になられたきっかけや苦労話を聞くことが出来ました。猫好きで、とても気さくな龍ヶ崎思いの素敵な方でした。

このイベントは当初募集人員25名でしたが、申込が殺到したため、めいっぱい募集枠を増やしたところ、当日は37名の参加者と講師とスタッフを合わせて41名。会場は熱気が溢れていました。

皆さまからいただいたアンケートには、「大変面白かった」、「内容も分かりやすく素晴らしかった」といった感想が大半を占めていました。

「偉人マンガ・木村安兵衛」は市内小学校4年生に向けての教材本で市販されておりません。市内コミュニティーセンターや市民活動センターで閲覧することが出来ます。



龍ヶ崎ヒストリー第19回「英美子(はなぶさよしこ)が見た竜ヶ崎鉄道の情景」

麦と菜種とれんげ草の色彩の平面図。その彼方にいぶし銀の微笑を湛えて眠たげに見えるのは、寮から間近い牛久沼。それからずっと手前に視線を引いてきて、浅黄色の細いリボンを流す江川用水を一筋加えたこの風景は、まず九十点の自由画というところでしょうか。そして麓から左側には、竜ヶ崎の一角が忘れずに点描されているし、右手の佐貫駅からは竜ヶ崎町へと向かう竜ヶ崎鉄道(小型で明治時代の遺物)が、ときどき玩具めいた警笛を鳴らし、体に似合わない黒煙を吹き出しながら、お愛嬌にのろのろと通っているのです。

以上、英美子随筆『春鮎日記』より原文通り

これは昭和20年(1945)、詩人英美子が筑波郡久賀村(現取手市新川)に疎開中、若柴の丘で見た光景を綴った一文です。

疎開という不自由な生活の中で、煮炊き用の薪さえも自分で集めなければならない。英は『春鮎日記』の中で若柴の丘へ薪拾いに行ったことを綴っています。其処はお気に入りの場所であり、何よりも寮といわれている寓居から近い薪場だったので何度も薪拾いに行ったようです。場所は特定出来ませんが牛久沼と龍ヶ崎市街地を一望出来る丘は、民家の裏山を除外すると金龍寺付近しか考えられません。そこから眼下に広がる馴柴村の光景は戦時中とは思えない長閑さがあったようです。いぶし銀の微笑を湛えた牛久沼、リボンと表現する江川に、何よりも、玩具のように小さく見える竜ヶ崎鉄道の蒸気機関車がのろのろ行く光景。これら総てが彼女にはおとぎの国のように映ったのでしょう。現在は雑木林に覆われて、このような180度のパノラマを眺めることは出来ません。

竜ヶ崎鉄道のこの当時の正式名は鹿島参宮鉄道竜ヶ崎線で、C型タンク蒸気機関車が運行されていたようです。これは4号機関車と呼ばれ、大正14年(1925)に製造されたものですが、東京での生活が長かった英にとって、見慣れないC型タンク機関車は明治の遺物に見えたのでしょうか。現在は歴史民俗資料館にて常設展示されています。

終戦後、英は東京に帰らないで、川原代村道仙田の旧小貝川のほとりを住居と定め、昭和40年(1965)までこの地で過ごします。最寄り駅の入地より徒歩20分。東京に出かける時の不便さを嘆いていましたが、やはり竜ヶ崎鉄道とは縁があったようです。

龍ヶ崎短歌会

食事前三々五々と集来る今夜の総菜楽しみながら
ほそ長きダリアの球根三十個夏の華やぎ浮かべうめこむ

大塚 純子
小嶋 知葉